

新型コロナウイルス感染後職員に対する抗原半定量スコアの有用性

○中川かつ枝¹⁾ 清川 翔仁²⁾ 小泉 恵¹⁾ 松本喜代美¹⁾ 若森 紀子¹⁾
水野美保子³⁾ 松岡 哲平⁴⁾ 瀬野 晶子⁵⁾ 泉谷 麻子⁶⁾ 吉尾 伸之⁶⁾
安井 正英⁷⁾

NHO 七尾病院 1)看護部 2)リハビリテーション科 3)検査科 4)薬剤科
5)小児科 6)内科 7)呼吸器内科

【要約】

当院の新型コロナウイルス検査は、ID NOW、LAMP、抗原定性を用いておりウイルス量の評価が困難である。そのため、抗原定性検査の結果をコントロールラインと比較し作成した抗原半定量スコアを、患者や職員の管理に用いている。

2023年6月～2024年8月に新型コロナウイルスに感染した職員で、5日間の療養期間終了後の出勤日に鼻咽頭ぬぐい液による抗原定性検査を行った69名を対象に、抗原半定量スコアの有用性を検討した。発症6日～13日の抗原半定量スコアの平均は経時的に低下し、11日には95.7%が陰性化し、感染性ウイルスの排出期間と同様の結果を得た。また、発症6日に抗原陽性の18名について、抗原半定量スコアと陰性化までの日数に有意な相関を認めた($\rho = 0.48$, $P < 0.03$)。抗原半定量スコアはウイルス量を反映すると推測され、人に感染させるリスクにある時期の把握に有用である可能性が示唆された。